

『はじめてのノーリフティングケア！』

～ 厳しくても前向きになれた挑戦 ～



2021年1月26日（火）

社会医療法人 福西会

介護老人保健施設 さわら老健センター

導入理由について



ノーリフティングケア研修導入前

- ① 腰痛はあるけれど、抱え上げたり持ち上げたりして介助するしかないよね…。
- ② 人員不足で新しい知識や技術を学ぶ余裕もない…。
- ③ 業務改善というけど、具体的にどうしたいのかわからない…。



- 全職員が誇れる、魅力ある職場を作りたい！
- 全職員が「常により良い仕事とは何か」を考えて行動できる職場にしたい！ 職場文化の改革！

ノーリフティングケアの目的

『 職員が常に安全で働きやすい職場を作り、
リスクマネジメントを実践する職場文化を持つこと 』



ノーリフティングケア = 働き方改革



働き方改革 = 『リスクマネジメント』のPDCA
『組織体制づくり』のPDCA

リスクマネジメントとPDCAサイクル

① 腰痛健康アンケートの実施

対象職員：入所看介護職員・通所リハ・リハビリ

② アンケートの内容チェック・課題点の抽出

『 オムツ等を運搬する作業の軽減について 』

③ 課題点の分析と対応策の検討

現状：施設内移動は台車を使用しているが、屋外にある段差は抱え上げて運搬している。



リスク分析：抱え上げによる腰痛・転倒

- P：台車でのスロープ運搬に変更し、運搬作業の軽減を図る
- D：8月17日～31日の2週間 実施
- C：アンケートの実施 ⇒ 「大変楽になった。」
- A：職員の意見、アンケートを基に改善へ



- ① PDCAサイクルを繰り返し実行することが『業務改善の近道』
- ② 小さな成功体験を経験することが『職員の意識』を変える！



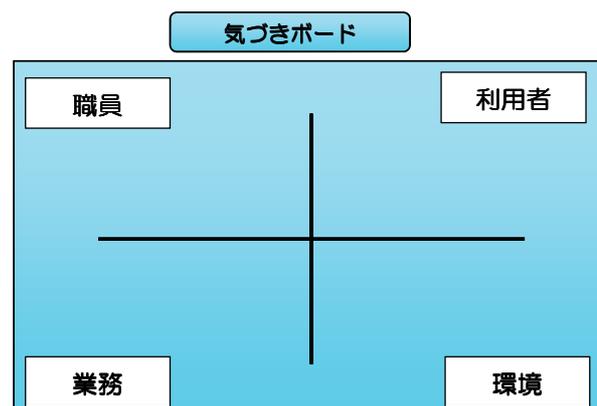
リスク把握について

【目的】

「危ないな・・・」「うまくいっている！」というように職員の「気づき」に対する感度を高め、『気がついたことはすぐに報告できる』という風通しの良い環境を作る。

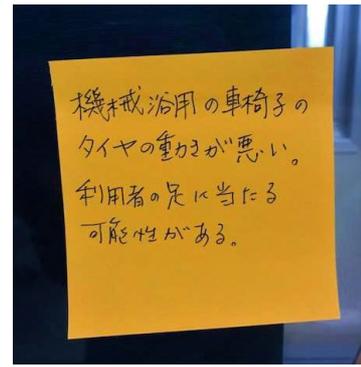
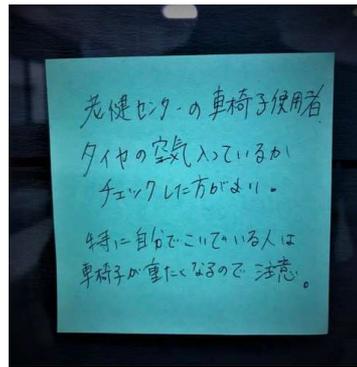
★ 『気づきボード』の活用について

- ① 利用者のケアに対する「気づき」を職員から抽出できる体制を構築し、業務改善につなげる
- ② ポジティブな意見を取り入れ、良い事例、成功事例を積み上げて利用者にとって最適なケアを提供しましょう。





気づきボード アクリル板を活用



メリット

- ① 職員間での情報共有がスムーズになった
- ② ひやりや事故になる前に迅速に対処することができる
- ③ ポジティブな意見は仕事を前向きにする

デメリット

- ① 職員によっては記入しないこともある
- ② 継続していくためには、管理者の声掛けが必要

教育体制について（実技講習での工夫点）



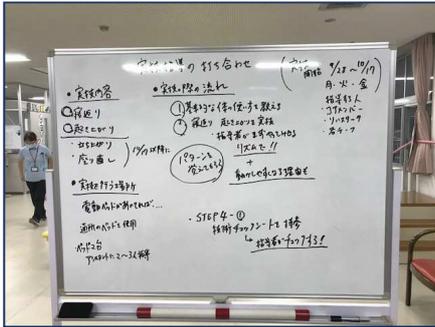
実技講習を実施するにあたって・・・

- ① 新型コロナウイルスで外部の実技講習に参加することができない・・・
- ② スライディングボードやリフトなど使用経験した職員がいない・・・

『対策したポイント』

- ① リハビリ職員のサポート
- ② DVDを何度も見て動作のポイントを見つける
- ③ ホワイトボードの活用
- ④ 実技講習での4つのポイントを徹底すること

ホワイトボードの活用



起き上がり動作介助



リフト体験会



【ノーリフティングケア4つのポイント】

- ① 環境整備
- ② 体重移動を行う
- ③ 支持基底面の確保
- ④ 体をねじらない

徹底

個別アセスメントの工夫点

アセスメントシートの改変

- ① ベッド周囲に**限定**
(寝返り・起居・起立・移乗)
- ② 介助者に負担がかかる場面
- ③ 実施していく介助
- ④ ケアプラン導入の**必要性の有無**

ノーリフティングケア・アセスメントシート

日付	本人の 身体機能	現状の介助	介助者に負担が 及ぶ場面	実施していく介助	計画書導入の 必要性
寝返り	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
起居動作	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外
	・自立 ・見守り ・一部介助 ・全介助				対象 ・ 対象外

腰痛調査と対策について

	項目	2020年6月	2020年12月
腰痛あり	常に痛い、またはよく痛みがある	10.2%	22.7%
	時々痛い	49.0%	31.8%
	合計	59.2%	54.5%

分析

6月と比較し、12月のアンケートでは職員のノーリフティングケアの取組みが前向きになってきたのでは・・・

理由

- ① 具体的なコメントの数が増加
- ② 体操やストレッチに取り組む職員が増加した事。

ノーリフティングケア導入の結果と課題

ネガティブ

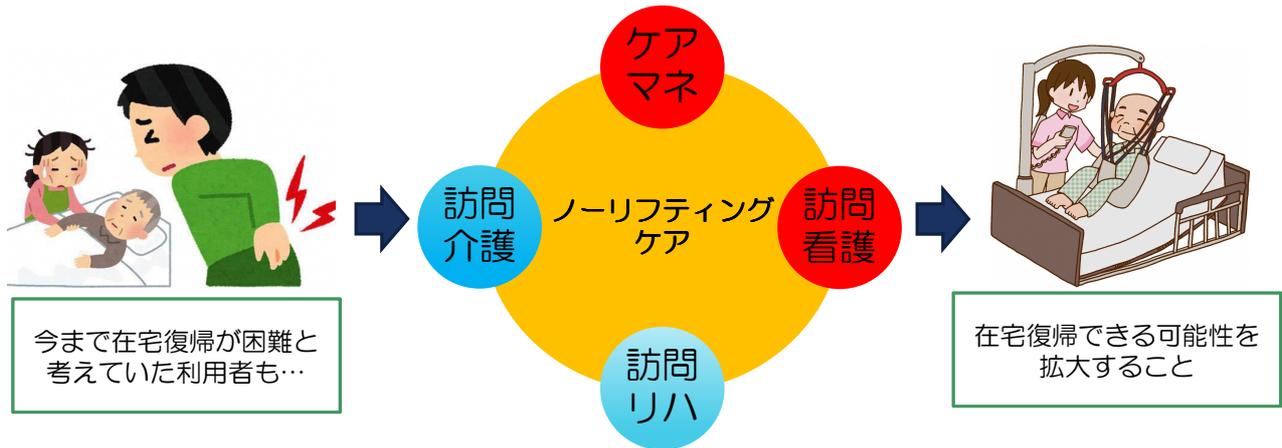
- ① ノーリフティングケアの研修を受けた技術指導者がいないこと。
- ② 個別アセスメントやプランニングにおいて評価にまだまだ差があること。
- ③ 職員間においてノーリフティングケアにおける意識の温度差がまだまだあること。

ポジティブ

- ① 腰痛保持者はやや減少傾向。しかし業務改善に対する意識は向上が見られたこと。
- ② 研修を続けていくうえで、コアメンバーを含め意見や自分の考えを言える職員が増えたこと。
- ③ 介護老人保健施設としての役割や方向性がより明確になった事。

ノーリフティングケアを推進する 介護老人保健施設の役割として・・・

介護老人保健施設の役割の一つ ⇒ 『在宅復帰』



ノーリフティングケア 3カ年計画

